

令和5年度 第5回第6期松本市地域づくり市民委員会 会議要旨

開催日時 令和5年5月16日（火曜日） 午後2時30分から午後4時まで

開催場所 大手公民館 大会議室

出席者（敬称略）

委員 降旗都子（委員長）、丸山宗志（副委員長）、一ノ瀬知佐子、永塚 博、鳥羽弘幸、山下京子、塩島くるみ、倉澤 聡、櫻井美智代、赤羽 勝、田村貴以子、中島麻衣

（欠席春日孝介、百瀬 壽、平林 洸）

事例報告者 香りの会（庄内地区） 代表 青木 みき
庄内地区地域づくりセンター センター長 甕 国人
センター長補佐 上條 亮
四賀地区地域づくりセンター センター長 降旗みゆき
センター長補佐 小林 聡

事務局 地域づくり課 地域づくり課長 廣田圭男
地域づくり担当 課長補佐 床尾拓哉、事務員 稲場毅人
ユースサポート担当 係長 胡桃澤伸一

1 開会

（降旗委員長）

2 あいさつ

（降旗委員長）

3 前回議事録の確認

（事務局 稲場）

- ・ 修正箇所を確認の上、追加の修正がある場合には、5月末までに事務局へ連絡されたい。特に連絡がなければそのまま確定版とし、6月上旬に市ホームページへ掲載したい。

<意見等>

- ・ なし

4 会議事項

(1) 地域づくりセンター強化モデル地区への聞取り

（進行：降旗委員長）

- ア 報告①：庄内地区「多様な連携による地域包括ケア体制の構築」
（庄内地区 甕センター長、上條センター長補佐、香りの会 青木代表）
- イ 報告②：四賀地区「中山間地域における持続可能な地域づくり」
（四賀地区 降旗センター長、小林センター長補佐）
- ウ 質疑応答
（進行・コーディネート：丸山副委員長）

<質問・意見等>

(田村委員)

- ・ 四賀の「フリーペーパーたね」について、交付金はグループに交付されるという理解であったが、一人で活動しているのか。
→ (四賀 小林) 一人ではない。代表者の他、手伝いの方が複数名いる。なお、当初は交付金が主な財源だったが、現在は広告を掲載する事業者が10社ほどあり、自立も見えてきている。

(一ノ瀬委員)

- ・ 交付金活用事業について、自立を目指すとの発言もあったが、交付金からの自立なのか、活動面での自立なのか。
→ (四賀 小林) 一番は財政的な面での自立。活動面については、伴走支援が基本であり、それほど手を出していない。

(永塚委員)

- ・ 高齢化が進むことで、除雪や耕作放棄地の草刈りなど、共同作業が重要になると考えるが、四賀地区はどのような状況か。
→ (四賀 小林) 地域づくり協議会でアレチウリ駆除などの作業を不定期に行っている。それ以外は、町会単位の活動が主になる。

(永塚委員)

- ・ 町会による共同作業は盛んということか。
→ (四賀 降旗) 主は町会、またはそれを母体とした協議会で活動している。その他、松枯れのため通れなくなった登山道をボランティアで整備しているような活動もある。

(山下委員)

- ・ 庄内の「盛々会」について、たたら製鉄や巣箱作りといった活動は、男性のボランティアが中心になっているように思うが、元々そのような団体があったのか。
→ (庄内 甕) 「盛々会」は、市制100周年の時に立ち上がった団体。しばらく活動が止まっていたが、今回の交付金をきっかけに活動を再開。地元商工会や弘法山古墳を愛する会、子ども育成会、小学校、松本工業高校等に声掛けし、新たにネットワークを形作って事業を展開している。

(山下委員)

- ・ たたら製鉄について、今後も何か行う予定はあるか。
→ (庄内 甕) できあがった玉鋼は、松本工業高校に預けてあり、小刀に加工できないか相談している。

(鳥羽委員)

- ・ 庄内の「集い場ふらっと」について、運営を担うワーカーズコープと地区や町会、地元との関係はどのようなものか。
→ (庄内 甕) 「ふらっと」は元々、並柳団地町会の支援を目的として始まった活動。関係者の体調不良や補助金切れ等により、地域だけでは運営が立ち行かなくなっていたところを、ワーカーズコープに一步前へ出てもらい、今回の旗振りをしてもらっている。コロナ禍で事業が中止になると収入もなくなるため、家賃

を支払えなくなる懸念があったが、交付金を充当することで、居場所を確保できている。商工会の協力もあり、家賃も当初の半額にしてもらっている。

並カフェについては、地域の中に「並カフェ支援班」というボランティアの仕組みがある。「ボランティアの会」では、食材支援を行う他、昨年からの地元の団体とも連携し、ボランティアと地域の方々との交流にも取り組み始めている。

(永塚委員)

- ・ 「集い場ふらっと」と地区公民館との関係はどうなっているか。
→ (庄内 甕) 公民館は、直接事業支援はしていないが、「ボランティアの会」の事務局的な役割を担っている。食材の収集や並カフェを支援するボランティアの取りまとめなどを行う他、定例会にも出席し一緒に協議している。

(永塚委員)

- ・ 「ふらっと」は商工会の建物を利用しているとのことだが、公民館がそちらの方まで面倒を見ていると理解してよいか。
→ (庄内 甕) 事業は基本的にワーカーズコープが運営している。後方支援については、公民館職員も地域づくりセンターを併任しているため、地域づくりの観点から一緒に取り組んでいる。

(鳥羽委員)

- ・ 「盛々会」について、代表者はどのような立場の方か、会はどのようなメンバーで構成されているか。
→ (庄内 甕) 代表の方は地元で自営業をされている方で、並柳地区の商工会の会長でもある。「盛々会」は市制100周年の際、狼煙リレーをやることになり、庄内地区15町会から代表、有志を募って立ち上げられた。

(赤羽委員)

- ・ 四賀地区は移住者が多いイメージがあり、アンケートでその実態が把握できたことは素晴らしい。移住者の活動と既存組織との連携の面で難しさもあると思うが、今回の取組みによって、両者の繋がりを考えるきっかけはできたか。
→ (四賀 小林) 結果を公表したのがごく最近のため、取組みはこれから。まずは移住者の方を集めてワークショップ等を行い、将来的には、若者、移住者、在住者を交えた取組みにしていきたい。心理的な溝があり、地元の人も移住者の活動が気にはなっているが飛び込めないでいる。何かきっかけさえあれば化学反応が起こりそうな気もするため、何とかそのような形に持っていきたい。
→ (四賀 降旗) 4月から学校のクラブ活動に協力いただける方を探す中で、移住者と学校との繋がりも生まれている。また、地区の夏祭りを通じて両者の接点を作りたいと考えている。

(中島委員)

- ・ 「盛々会」について、小学生や高校生を巻き込みながら、多世代で地域を学べる取組みがすごいと思った。たたら製鉄や鳥の巣箱を教えているのは盛々会のメンバーか。また、活動のアイディアはどこから湧いてくるのか。
→ (庄内 甕) たたら製鉄は、菅野中学校の先生、鳥の巣箱については信州野鳥の会の会長をお招きした。題材については、自由に話し合っ決めてもらって

る。行政・公民館主導ではなく、メンバーがちょっとしたきっかけや思い付きを持ち寄ってゼロから組み立っている。

(倉澤委員)

- ・ 「香りの会」のハンドトリートメントについて、コロナ禍で一番失われていたコミュニケーションに力を入れている点が良い。これまで、視覚、聴覚、味覚で楽しむ活動はあったが、嗅覚を生かした活動はあまりなかった。今後、地域でどんなことができそうか。
→ (香りの会 青木) 今年から小学校のクラブ活動でアロマセラピーを担当している。アロマは植物の香り成分を抽出したものであるため、その植物に親しみを持ってもらえるような活動を考えている。自然豊かな松本市には、香りのある植物が各地域にたくさんある。どんな植物に香りがあるのか、その香りがどんなふうに見えるか、子どもたちに学んでもらう機会を持てたことは、有意義であった。

(丸山副委員長)

- ・ 長野県出身の地理学者・市川健夫も「人は風土の中で生きている」と提唱してきた。地域の様々な取組みを、いかに風土と結び付けるかが重要。
- ・ それは教育にも繋がっていて、自分たちの地域がどうやって営まれてきたか、先人たちが自然を利用しながらどう生きてきたかを、子どもたちに伝えていくことで、ずっとそこに住んでいる人たちも関心を持てる活動になるのではないか。
- ・ すでに走り始めている取組みではあるが、今後、そうした意味付けを積極的に行っていくことで、さらに良いものになっていくように思う。

(降旗委員長)

- ・ 庄内地区の「盛々会」は、弘法山に桜を植えた人たちと関係があるのか。
→ (庄内 甕) 弘法山の桜はライオンズクラブの周年事業で植えられたもの。それを利用し、住民で桜まつりを開催していたが、関係者の高齢化等で継続困難となり、令和元年度から実施を取りやめ、活動が止まっている状況。

(2) 若者チャレンジ応援事業について

(ユースサポート担当 胡桃澤係長)

- ア 事業内容の説明
- イ 審査方法、申請団体資料の送付について

(3) その他

(事務局 稲場)

- ・ 今後のスケジュールについて